

News Letter ニュースレター Vol.2

各学科・サークルから

実施報告

メディアコミュニケーション学科

飯田准教授 ゼミ学生

華齡(かれい)に健幸(けんこう)を手に！

2月中旬に全4回実施し、のべ90名が参加した「ヘルシーダンス」。90分間、コミュニケーションゲームや椅子に座ったままのダンス、タオルやボールを用いた体操、マッサージなどに取り組んだ。近隣の高齢者の方々(60~80代)が毎年楽しみにして下さっているこの企画。県内はもちろん東京や茨城からもご参加いただき、ゼミ生全26名が交替でサポートに入った。ヘルシーダンスの特徴の一つは様々な世代の混合にある。また、号令ではなく、音楽に合わせて動くことにより、知らないうちにトレーニングになるという利点もある。動きながら、体に関する知識の解説も行うため、運動への意欲も高まる。最後にはマッサージの時間を設け、からだの疲れをとる。また、動きを覚えようとすることで認知機能への働きかけが促され、若々しさを保とうというねらいもある。学生も地域の方と交流しながら、健康や運動の大切さを学ぶことができた。



ゾウキリンくらぶ

有楽町駅前

福島支援イベントに参加

12月6日、東京都行政書士会の福島イベントに参加した。福島の有機農業を紹介するリーフレットを配布し、クイズに参加してもらったり、双葉町支援の「いもプロ」クッキーを販売したりした。以前から交流のある双葉町にも活動を喜んでいただき嬉しく感じた。今後も様々なボランティア活動に参加し、自分たちができることは何かを考え、誰かのために行動したい。(生活情報学科3年 林華穂里)



表現文化学科 クリフ教授 学生有志

「染めの街」を再び「染の小道」の参加

2月28日から3月2日の3日間、クリフ教授がサポーターとして関わった地域活性化イベント「染の小道」が開催された。会場である新宿区落合・中井地域には、江戸文化を受け継ぐ染色関連業が集まる。妙正寺川の川面に反物を張る「川のギャラリー」、商店街店舗の軒先に「のれん」を展示する「道のギャラリー」が、街に彩りを添えた。



日本文化に触れるいい機会になり、街の活性化のために地域の方々や学生が協力している姿から多くのことを学んだ。当日は着物を着てスタッフを務めた。この経験を通して、染物の種類や歴史、一枚の反物を作る大変さなどを学ぶこともでき貴重な体験ができた。

(表現文化学科2年 西山恵里佳)

学生スタッフとして、様々なミーティングに参加。川に飾る反物を作るイベント「100人染め」に参加したり、「紅型」という染めの体験もした。当日は着物を着てパンフレットを配ったり、道案内をしたりした。着物で中井の町を走ることも。トラブルが起きたときは、臨機応変に対応することができ、助け合いの素晴らしさを実感した。このイベントを通して、中井がもっと好きになった。(表現文化学科2年 三枝廷珍)



ゾウキリンくらぶ 雪かきボランティア(秩父市吉田太田部地区)

実際に訪れて、雪の多さにも驚いたが、人々がどのくらい大変なのが痛い程わかった。雪かきを手伝いながら、その地域の方の暮らしや地域の話をとくさん聞くことができた。災害がもたらす災難を目の当たりにし、それでも前を向こうとする姿勢に素晴らしさを感じた。

(メディアコミュニケーション学科 2年 中村有香)

学生の担当は、駐車場の雪の除去と、100mぐらいの登り道の雪の除去。煉瓦のように固い雪を、掻くというよりは砕くといった感じで雪かきをした。一人一人通れるぐらいの道しかなかった道路が、現地の方や市役所の方たちと共に雪かきをしたことによって、車一台分通れるぐらいまでになった。作業を終えた時は、達成感と感動で胸がいっぱいになり、現地の方々の「ありがとう」のことに嬉しさを感じた。

(メディアコミュニケーション学科 2年 佐々木朋子)



地域のイベントに出展

新座市収穫祭(11月10日)、オープンカフェ(11月24日、12月1日)、野火止用水ご当地グルメ・ゆるキャラ®フェスティバル(12月16日)に出展。商品はおなじみ「スノーボール」。商品名「スノーボール」を「サツマイモのお菓子」と分かりやすく言い換えたり、活動の趣旨を丁寧に説明したりして、販売促進に励んだ。オープンカフェでは、平林寺でも販売。いもプロの活動を多くの方に知ってもらうことができた。



学内販売

12月23日に、タルトとスノーボールを学内で販売。21日に仕込み、22日に焼き上げの作業を行った。21日は、少人数の作業であったが、役割分担もうまくいき、スムーズに行うことができた。そして、販売当日。移動販売を実施した効果もあり、無事、時間通りに完売することができた。3日間の活動を通して、皆が一人ひとりの役割を理解して動くことができ、はじめの頃との変化を感じた。

【いもプロ記事 参考】平成25年度教職基礎演習冊子『さつまいもプロジェクト活動の記録』より

12月23日、学内で「双葉町支援イベント クリスマスロールフェス」が開催された。当日は双葉町から加須市に避難されている方2名が本学に来てくださり、震災の状況や近況をお話し下さった。また、いもプロは、これまでのイベントで、双葉町の方が作った着物のリメイク小物「双葉撫子」を販売してきた。当日は、その売上げ金をお渡しした。そして1月7日、双葉町支所と、加須ふれあいセンターに義援金を届けた。それぞれ小中学校の建設費用、双葉町から避難している方の活動資金として使われる。



今後の予定

一般社団法人十文字スポーツクラブ・学校法人十文字学園 共催
第15回十文字学園杯女子ジュニアサッカー招待大会

8月2日、3日に埼玉、東京、千葉、ハワイ(予定)の少女サッカー12チームが本学に一堂に会し、サッカーチームのフェスティバルを開催。十文字スポーツクラブは、スポーツを通じた地域社会および地域の方々への貢献を通して、地域に愛され、地域に根ざすことを目的に活動。(21世紀教育創成部 石山准教授)



昨年度の写真

大学開放・地域連携推進センター主催事業

実施報告



開催日時	タイトル	講演者	担当	参加者数
2月22日(土) 10:50~12:00	「夢と出会いが力に…～チームワークとコミュニケーション～」	佐々木剛夫氏 (プロサッカー指導者)	石山隆之 准教授 飯田路佳 准教授	約600名

佐々木氏の温かい人柄とユーモアを交えた講演に、約600名もの聴衆が引き込まれた。特に、十文字高校、大学サッカー部員、県内外の中学・高校のサッカーチーム部員は、身を乗り出し、熱心にメモを取る。一言一句を大切にペンを走らせる姿は印象的だった。以下、十文字高校サッカー部員の感想を一部紹介したい。

- ① チームを引っ張っていくことはなにか？を考えて私なりに出した答えは、チームの誰よりも熱い気持ちを持っていること、物事に責任感を持っていることだと思った。ただし、自分1人が持っているだけではチームのためにならない。チームのみんなに伝えていくことが大切だと思った。
- ② 今の私には「自主性」が不足していると感じた。原因はたくさんあるのだが、一番大きな原因はミスを怖がって自分のプレーに自信が持てないということだと思う。「成功の反対は失敗ではなくチャレンジしないこと」。この言葉を聞いて考え方を変えなくてはと思うことができた。

編集後記

ニューズレター第2号をお届けいたします。今回は、活動に携わった学生の声を多く掲載いたしました。来年度も多くの学生が地域をフィールドとして活躍してくれることを期待しています。また、地域と連携した活動について、何か情報がございましたら、各学科の大学開放・地域連携推進センター運営委員までご連絡ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
担当 表現文化学科 星野祐子 社会交流支援課 高田佳織